

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙・「みらい」
NO. 4520
25年2月4日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

第54回長崎地区労 春闘討論・学習会

おはようございます。

2月1日(土)長崎地区労会館において「第54回 長崎地区労春闘討論・学習会」が開催され支部から山田支部長が出席しました。

集会は高地区労副議長の開会挨拶から始まりました。続いて主催者を代表して松尾地区労議長が「2025年春闘がスタートしました。昨年の春闘では賃上げはあったが我々の暮らしは良くなっていない。25春闘では物価高に負けない昨年以上の賃上げを勝ちとらな」と挨拶を行いました。

続く記念講演は講師にフォーラム平和・人権・環境の藤本顧問を迎え、「團結する労働者の責任―労働運動と平和運動」の演題で約1時間講演がありました。講演では労

働組合の成り立ちから戦前、戦後の労働運動についてわかりやすく話されました。



続いて加世田書記長が「2025地域春闘並びに共に闘う諸課題」として1, 2024春闘の経過と総括、2, 2025春闘情勢と地域春闘方針、3, 春闘と共に闘う課題の3項目に分けて提起されました。

最後に「2025春闘では、大企業だけでなく、中小企業にも賃上げを波及させていかなければならない。そのためには粘り強い交渉が必要となってくる。大手企業の集中回答日が過ぎたらマスクミなどは報道しなくなるが、中小企業のたたかいは続くので街宣活動などを続けていきたい」とまとめられました。

その後、休憩を挟み各組合からの報告へと移りました。一部抜粋して紹介します。

○長崎県タクシー労働組合

1日の営業収入は約5%上がっているが、元々賃金が低く他企業との格差は縮まらない。そのため、タクシー乗務員が増えず、結果、稼働率が上がらない。

○合同労組

新しく3名の組合員が加入した。1名は1年半にも及ぶハラスメントの影響で精神的に不安定になる中、会社からの解雇通知があり、組合に加入。病気休暇期間中の賃金を求め裁判闘争を行う事を決定した。

○長崎市職労

昨年の人勧では、若い世代を中心に賃上げがあった。自治体労働者を取り巻く状況では40歳未満の退職者数が年々増加傾向にあり、さらに採用試験応募者が減少する状況が続いている。当局でも若手の退職を問題視している。長崎市役所でも他企業のように人事評価が賃金と連動している。

○長崎県職

24確定闘争における改善、到達点については「再任用職員の諸手当支給」や「病気休暇取得時の診断書の提出が必要な日数の拡大」など改善点はあったが、手当の段階的な廃止と扶養手当の見直しなどの処遇改善は得られなかった。



○衛公労

クリーン長崎はプラスチックの選別も仕事に入っているが、これが長崎市の委託業者へ移行する話が出ている。また、クリーン長崎は財団法人で2年赤字ならなくなるとの話もある。

○長崎交通労組

2024年問題では勤務間インターバルが適用されるようになったが、欠員のため確保するのが大変になった。人員不足で募

集年齢を70歳まで引き上げた。

○長崎バスユニオン
要員不足が深刻だ。春闘では物価上昇に見合う賃上げが必要だ。春闘での賃上げは19, 100円要求し、スト権も確立していく。

○長西総支部

全国で学校崩壊が始まっている。教職員のなり手がいない。長崎でも教職員が不足している。

郵政ユニオンからも山田支部長が「ヤマト運輸との協業」「年賀はがき減少」「委託業者への違約金」の3点について報告しました。

全ての組合の報告終了後は加世田書記長が討論のまとめを行い、最後に松尾議長が閉会挨拶を行いました。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に闘って闘おう。

期間雇用社員の改善を主張の正社員化を。めざせ、均等待遇。なにより差別！「ユニオンは労基法裁判に勝利した！」

